

【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

税への関心が築く未来

えびの市立上江中学校

三年 清野 七夕稀

令和元年十月に、消費税の税率が8%から10%に引き上げられました。このことに対し日本中で様々な意見があることを知り、税について興味を持ちました。

税金には様々な種類があり、そのどれもが私達の生活に大きく関わっています。しかしそんな税について詳しく知らないという人が多いのではないのでしょうか。私にとって一番身近なものである消費税ですが、私は消費税について何も知らなかったんだということを今回実感しました。また、日本の今の税制度には問題が多くあることも知りました。

日本の消費税は10%ですが、この10%というのは世界で見ると低く、一番高いノルウェーなどでは25%と、とても高くなっています。しかし、ノルウェーでは医療費、教育費、出産費、介護費が無料となっていて、とても充実した保障になっています。このように、ノルウェーでは自分の暮らしにしっかりと還元されている事を実感することができます。から、税金が高くて不満なく、安定した生活を送ることができるんだと感じました。

この点で日本では税金に対し、知らない、分からない事が多いからその内訳や不必要な使われ方があったとしても、疑問を抱いたり、異議を唱える人もいないのだと思います。分からないからこそその無関心が一番の問題に思います。学校でも、税金についての学習が少ないと思います。納める側となる私達がきちんとその必要性を理解する事が大切だと改めて感じました。

現在、少子化が問題になっている背景にも子供一人当たりにかかるお金が高いという事もあるかと思っています。納税者は生きるだけで所得税、固定資産税、たばこ税、酒税など、様々な税金を納めていて、子供を育てる為にかかるお金を負担に感じる人も少なくはないと思います。さらに、今後の社会に対し不安に思う親も多いと思います。

これからの将来、納税者が税についての理解を深めることができ、子育てもしやすい社会をつくる必要があります。その為にも、将来納税者となる私達が、税金について知り、その必要性和集められた税金の流れを知る事が大切なのではないかと考えます。